

学校経営の概要

1 学校教育目標

『たくましい心と体を持ち 未来に向かって生きる 栄っ子』

めざす学校像

- 「明るく楽しい学校」 — 挨拶・笑顔・思いやり —
- 「個が生かされる学校」 — 学力・体力 —
- 「きれいな学校」 — 清掃・環境 —
- 「開かれた学校」 — 信頼・協力 —

めざす子ども像

- 「自ら進んで、学びを深める子ども」
- 「自分や他人を大切にし、協力する子ども」
- 「丈夫な体で、最後までやり抜く子ども」
- 「自ら考え、進んで行動できる子ども」

めざす教師像

- 「研究と修養に励み、自らの資質向上を目指す教師」
- 「愛情にあふれ、教育への情熱と使命感をもった教師」
- 「心身ともに健康で師弟同行の実践に務める教師」
- 「保護者、地域と連携して学校づくりにあたる教師」

学校の特色

- 『学び』を大切にした学校」
- 「読書活動の充実した学校」
- 「防災教育の充実した学校」

合い言葉

「笑顔・挨拶・思いやり」

2 学校経営基本方針

- 1 「バランスの取れた知徳体を育成する学校づくり」
- 2 「仲間と共に高め合う集団活動のできる学校」
- 3 「確かな教師文化を構築する学校づくり」
- 4 「保護者・地域に開かれた学校づくり」
- 5 「危機管理が徹底し、安全安心な学校づくり」

3 指導重点

(1) 確かな学力；確かな学力の定着と向上

- ① 基礎・基本の定着
- ② 児童の主体的な活動の促進
- ③ 聴き合い、学び合う授業の実践
- ④ 学習意欲を高める指導法の工夫・改善
- ⑤ 特別支援教育体制の充実

(2) 豊かな心；心のふれあいを深め、思いやりのある児童の育成

- ① 心の痛みを共有し「心の居場所」となる学級づくり
- ② 道徳教育の推進と充実
- ③ 読書活動の充実
- ④ 自然体験や社会体験などの体験活動の充実
- ⑤ 挨拶運動の推進
- ⑥ 豊かな情操をはぐくむ指導の充実

(3) たくましい体；体力向上及び健康・安全教育の充実

- ① 体力向上に向けた取組の推進

- ② 基本的な生活習慣の定着と啓発
- ③ 学校給食を通しての望ましい食習慣の形成
- ④ 健康教育の推進
- ⑤ 安全安心な環境の整備と安全教育の推進
- ⑥ 危機管理マニュアルの検証・改善

(4) 生徒指導；生徒指導の充実

- ① いじめ対応の早期発見早期解決
- ② 望ましい人間関係の構築
- ③ 児童会活動の充実と自治意識の高揚
- ④ 児童理解と相談体制の充実
- ⑤ 家庭や関係諸機関との連携

(5) 開かれた学校；開かれた信頼される学校づくりの推進

- ① 積極的な情報発信
- ② 学校公開の実施
- ③ 地域の声の収集と学校経営への反映
- ④ 地域人材の活用
- ⑤ 学校評価システムの確立
- ⑥ 学校評議員・P T A・関係機関との連携協力

4 栄っ子みんなのめあて(具体目標)

- ① 自分からあいさつする栄っ子
- ② 言葉づかいに気をつける栄っ子
- ③ そうじをがんばる栄っ子
- ④ 仲良くする栄っ子
- ⑤ 時間を守る栄っ子
- ⑥ 整理整頓をする栄っ子
- ⑦ はっきり話す栄っ子
- ⑧ しっかり聞く栄っ子
- ⑨ しっかり食べ、しっかり眠る栄っ子
- ⑩ たくさん遊ぶ栄っ子

5 校内研究

(1) 研究主題

「思いや考えを豊かに表現できる子どもの育成」
～各教科・領域等における言語活動を通して～

(2) 研究主題設定の理由

学習指導要領総則に、学力の3つの要素として「基礎的・基本的な知識・技能を習得させること」「それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力をはぐくむこと」「主体的に学習に取り組む態度を養うこと」が示されている。それらを培う教育活動を進めるにあたっては、児童生徒の発達段階を考慮して、言語活動を充実させることが必要であるとされている。

言語活動の充実とは、学習指導要領の改訂において各教科を貫く重要な改善の視点である。言語活動とは、相手からの情報を五感を用いて取り入れ、その情報を理解・整理・分析・比較し、まとめたものを説明・発表・報告・論述するなど、思考・判断・表現のそれぞれの領域において言語を用いて行う活動であり、言語の力を育てる知的活動である。それらの活動を相互に関連させながら工夫と充実を図ることで、児童が身に付けるべき力の質を高めることができる。

本校では、一昨年度「各教科・領域等における言語活動の充実と言語能力の育成」をサブテーマに掲げ、「話す・聞く」力を基盤とし、言語環境を整える中で「伝え合う力・話し合う力」の育成に焦点を当て研究を行った。「伝え合う力・話し合う力」を育むためには、児童一人一人がいろいろな場面において、言語の役割についての意識や関心を持ち、正しい言葉を使いながら自分の考えを伝えていく活動を行うことが大切であると考え、研究を進めてきた。

昨年度は、「思いや考えを豊かに表現できる子どもの育成」をテーマに、これまでの研究をさらに継続、発展させ、各教科・領域等における言語活動の充実を図り、互いの立場や考えを尊重しながら、自分の思いや考えを豊かに表現できる子どもの育成を目指して研究を進めることができた。表現力が向上してきているという手応えを得ることができたが、「豊かな表現」という点においてはまだ十分とは言えず、個人の変容を確かめるための客観的な尺度となるものがあると良いという課題が残った。

そこで、今年度は、昨年度の研究を継続、発展させ、「豊かな表現」についての共通認識を図りながら、児童の実態や変容の把握に努めたい。また、言語活動を通して「豊かな表現力」を身に付けさせるために、何のための言語活動であるのかを常に意識しながら授業の構成や展開を考え、授業の活性化や改善、子どもたちの主体的な学習への取組につなげていきたい。

(3) 研究目標

確かな学力を支える言語能力をはぐくむために、各教科・領域等において、言語活動を取り入れた授業の工夫・改善を行い、授業実践を通して検証する。

(4) 研究仮説

各教科・領域等において、言語活動の充実を図る学習指導を仕組むことにより、児童の言語能力が高まり、豊かな表現力を育むことができるであろう。